

IEA-IEF-OPEC 共催による国際シンポジウムに参加して

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

10 月 4 日、パリ・IEA 本部において IEA-IEF-OPEC の 3 機関共催による、天然ガス市場と石炭市場の見通しや課題に関するシンポジウムが開催された。このテーマで、上記の世界のエネルギー問題に関する 3 つの代表的機関がシンポジウムを開催するのは初めてである。本シンポジウムでは、政府関係者・産業関係者・専門家が 60 名強参加し、「最近の天然ガス市場動向と今後の見通し」、「最近の石炭市場動向と今後の見通し」、「天然ガス・石炭市場における市場規制」の 3 つのセッションで活発な議論が行われた。以下では、その議論の中で筆者にとって特に印象的であった点をまとめる。

第 1 に、天然ガスと石炭、という二つのエネルギーを同時に取り上げ、その市場動向と将来見通しや課題を議論する、というこのテーマ設定そのものが極めてタイムリーであり、有意義である、と感じた点を挙げたい。天然ガスも石炭も、それぞれに重要なエネルギーであることはいうまでもなく、かつ、最近では前者におけるシェールガス革命、後者における中国・アジアの需要急増など注目すべき動きが表れている。しかし、本シンポジウムでは、エネルギー市場において競合するこの二つの重要なエネルギーについて、両者の相互・競合関係を含めた大きな視点から問題を議論する場が提供されることになったのである。

第 2 に、まさに上述したガスと石炭の相互関係という観点で、世界のエネルギー市場には大きな変化が生じていることを改めて実感した点を挙げたい。この変化の Key Word は、やはり「米国におけるシェールガス革命」である。シェールガス革命が米国の天然ガス需給・ガス価格・ガスビジネスに広範かつ多大な影響を与えてきたことは夙に知られた事実であるが、その余波は天然ガス市場にとどまらない。今回のシンポジウムの議論の対象である石炭にも極めて大きな影響を与え、それは米国内のみならず国際的な石炭市場動向にも影響を及ぼしている。具体的には、急速な価格低下によって天然ガスの価格競争力が高まり、米国発電市場で最大の燃料である石炭の天然ガスによる代替が進んでいる。そして天然ガスによる代替で需要が急減しつつある石炭は、国内市場での販路確保困難化・余剰の発生という現実と直面し、国際市場での販路確保に向かう動きが顕在化しているのである。米国からの石炭輸出は、日本を抜いて世界最大の石炭輸入国となった中国にも大量流入するなど、世界の石炭貿易を見る上で注目すべきポイントとなっている。また、その環境下で、世界の石炭価格低下がもたらされており、まさに米国「シェールガス革命」の影響が天然ガス市場を超えて世界に伝播している典型的な例の一つと見る事が出来る。

第 3 に、その影響下で発生しているエネルギー市場の変化は、決して一様なものではな

く、地域毎に大きな差異があることも本シンポジウムでの議論で度々指摘されたことが印象的であった。特にその点で欧州の状況と今後の動向が注目される。本シンポジウムでは、IEA の「天然ガス黄金時代の到来」に関する様々な議論があったが、欧州の現状は決して「黄金時代到来」と言えるようなものでなく、産ガス国もガス事業者も含めガス市場関係者にとっては大変厳しい状況にある、との認識が示された。シェールガス革命後、低価格ガスの利用拡大を享受する米国、経済成長でガス需要が増加するアジアや震災後の「特需」で LNG 需要増が発生している日本、などとは対照的に、欧州では 2011 年以降天然ガス需要は低迷・減少傾向にある。逆に、相対的な価格競争力を高めている石炭の需要は増加しており、欧州では米国と逆にガスから石炭へのシフトが足元で起きている、という現状が多く関係者から指摘された。石炭利用の拡大は、CO₂ 排出を拡大させ、積極的な温暖化政策を進める欧州にとって課題・懸念要因ともなりうるが、現在の石炭価格そして CO₂ 価格の低さ、そして欧州経済やエネルギー情勢の実態から、市場でのエネルギー選択が進んでいる実態がある。

第 4 に、天然ガス・石炭共に、やはり将来の国際市場動向を大きく左右する要因として中国の動向が極めて重要であることが改めて会議参加者から表明されたことを挙げたい。米国以上の非在来型ガス資源を保有する中国の今後のガス開発動向と国内ガス市場発展の帰趨、そして、世界の市場のほぼ半分に達する巨大な規模を有する中国の石炭市場における国内開発、輸入の動きは、何と云っても今後の市場動向を左右する決定的に重要な要因である。石油、天然ガスに続き、石炭についてもついに中国は純輸入国化し、しかもその輸入量が急速に拡大、日本を抜いて最大の石炭輸入国となった。今後の中国の石炭利用状況とそれに伴う石炭輸入の展開は、世界の石炭需給・価格そして CO₂ 排出を見る上でまさに鍵を握る最重要要因である。

第 5 に、今後の天然ガス・石炭市場を見る上で、多くの不確実性や不透明要因が指摘されたことが印象的であった。上述した中国要因に関しては、今後の経済成長やエネルギー政策の展開に関する不確実性がある。また、非在来型ガス資源の開発が米国外でどれだけ進みうるのか、また米国においても現在のガス需給・価格動向がどの程度持続していくのか、等に関しては様々な不確定要因があるとの見方が示されている。さらに会議の議論では、福島事故後の原子力発電の位置づけに関する不透明性による影響も重要な要因との指摘もあった。また、エネルギーの生産・輸送・利用等の各段階における技術進歩の影響から発生する将来の不確実性を指摘する意見も見られ、今後のエネルギー市場を展望する際、いかに多くの要因・不確実性を考慮する必要があるか、を改めて実感するに至った。

IEA-IEF-OPEC は、これまでも、石油市場の見通しや石油価格形成の問題に関して、国際的なシンポジウムを開催してきた。今回は、その議論の範囲をさらに天然ガスや石炭に広げる意味で有意義であったということが出来る。不確実性や多くの課題に満ちているエネルギー問題に対処していくためには、関係者間の率直な意見交換を通して問題認識を共有化すること、そして情報共有と市場情報の透明化を図ることでの関係者による市場理解・認識の向上と深化を図ること、は重要である。今回のシンポジウムは、関係者間の対話促進、市場理解の深化を図る上で新たなプラットフォームの一つとなったのではないかと

以上

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp